

入 学 試 験 問 題

総 合 科 目 II

(法学部)

(配点 120 点)

第 124 季 師走癸巳 (2010 年 2 月 12 日)
午 3 つより 1 刻と四半刻 (13:00 ~ 15:30)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 解答には、必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
- 3 問題冊子は 3 ページある。落丁、乱丁、印刷不鮮明な個所がある場合、手を挙げて監督者に申し出ること。
- 4 解答用紙の指定欄に受験番号、氏名を記入すること。
- 5 解答は、必ず指定された箇所に記入すること。
- 6 記入欄に、関係の無い文字、記号、符号などを記入しないこと。また、解答用紙の余白には何も記入しないこと。
- 7 問題用紙の余白はメモ、草稿、計算用に使用してもよいが、切り離してはいけない。
- 8 **試験中は解答の手助けとなる、いかなる能力も使用してはいけない。**
- 9 解答用紙および問題用紙は、持ち帰ってはいけない。

受験番号	
氏 名	

第 1 問

次の文章を読み、後の問いに答えよ

是非曲直庁とは、裁判官である閻魔の数の急増に伴い設立された公的組織である。閻魔、死神、鬼から構成され、閻魔は死者に対する裁判を、鬼は地獄に落ちた魂に対する刑罰を、死神はそれ以外の事務・輸送業務などを行う。死者数の増加に歯止めが利かないことから長期に亘って拡張政策を余儀なくされており、①財政難に陥っている。

この財政難、及び官僚制特有の癒着構造を解消するために、②灼熱地獄地域の切り離しによるスリム化や、中有の道地域の出店開発を行ってきたが、依然として財政は苦しいままであり、設備更新の遅れから設備の使用休止や、旧式の設備での事業といった問題が生じている。

(幻想郷縁起より 一部改変)

問 1 下線部①について、財政難を解消する施策として、あなたの考える解決策を 1,000 字程度で述べよ。ただし、死者数が増加し続けている現状から、拡張政策に制限を掛ける事は出来ないこととする。

問 2 下線部②について、その行為の是非を賛成または反対の立場から具体的に 1,000 字程度で述べよ。

第2問

次の閻魔と妖精の会話を読み、後の問いに答えよ

四季 「遊べる場所を求めて、うっかり無縁の塚までやってきたと言う訳ね。」

チルノ 「来たことがない方へ移動してきただけよ。桜が綺麗だったけど、墓場じゃないの！」

四季 「人間はいつかは死ぬのです。死者は墓場に入る必要は無いけど……。生きている者が死者の死を認めるために墓場が必要なのです。そう、墓場とは生者の為の施設なのですよ。」

チルノ 「なんだか知らないけど墓場の番人みたいな奴も居るし、墓場なんか居たくないし。もう帰る！」

四季 「うふふ、待ちなさい。私は墓場の番人ではありません。別件で此岸まで訪れただけですが……。ここに罪深い妖精を見かけたから放ってはおけません。」

チルノ 「番人じゃなきゃ何？ここは墓場だから……。もしかして！」

四季 「幽霊でもありませんよ？貴方は妖精なのに強い力を持っています。でも、そのお陰で自分のテリトリーを外れる事が多い。そう、貴方は少し迷惑をかけすぎる。」

チルノ 「……」

四季 「そのままでは、貴方は自然の力で元に戻れないダメージを追うかも知れない。」

チルノ 「そんな事は無いってば、最強だし！」

四季 「すなわちそれは死、という意味です。貴方が死ねば、きっと私達が貴方を裁く。その時は、天界に行くか、地獄に行くか……。まだそこまでは判らないけどね。」

チルノ 「そんな……。人間みたいな事を……。そ、そんな脅しは効かないよ！」

四季 「小川のせせらぎ、鳥の鳴き声、虫の歌。自然だって死ぬときは死ぬのです。①永遠は自然界には存在しないと思いなさい。貴方は、少し力を持ちすぎたことを自覚せよ！」

(東方花映塚より)

問 あなたは、下線部①の見解について、どのように考えるか。理由も示しながら 800 字程度で述べよ。その際、閻魔の意見に縛られる必要はない。